

報告案をまとめるにあたっての論点①

＜総論＞

論点1: 今日における明日香村の歴史的風土をどう踏まえるか？（1. はじめに、4. 将来的な取組のあり方）

- ・古都保存法制定時、あるいは現計画策定時から、周りを取り巻く環境や社会情勢の変化に伴い、「明日香らしさ」が徐々に変化しているのでは。
- ・歴史的風土において、古代だけでなく、その後の時代の人々の暮らしも重層的に積み重なっていることを、どのように踏まえていくか。
- ・史跡等の歴史文化資源が主（図）、周辺の田園景観が従（地）という捉え方だけではないのではないか。

⇒ 今日における歴史的風土の価値について、次期整備計画策定までに調査検討を続けていくべきではないか。

論点2: 世界遺産登録推進やインバウンド需要の高まりを考慮すると、今後の歴史的風土の保存のためにはどのような取組が必要か？（4. ）

- ・村内外に向け飛鳥の魅力を発信するとともに、外部の多様な団体・人材の参画により、保存に寄与する活動を活性化していくべき。
- ・一方、開発規制による現状凍結的な保存により守られてきた歴史的風土の価値が損なわれないよう、新たに付け加えていく取組等については歴史的風土との調和について慎重に検討することも必要ではないか。

論点3: 「明日香村歴史的風土創造的活用事業」の効果及び交付金による支援継続について（3. ）

- ・現時点で達成されていない目標もあるが、コロナ禍での観光等の活動の低下を考慮する必要。
- ・国による開発規制が続けられている中、村の財政基盤も脆弱な状態が続いている。

報告案をまとめるにあたっての論点②

<各論>(3. 当面取り組むべき施策のあり方、4. 将来的な取組のあり方に向けた今後の議論の方向性)

論点1: 世界遺産登録に向け、理解しやすい「ストーリー」を作っていくにはどうすれば良いか

- ・基礎知識がそれほど無くとも日本国家の形成について理解が深まるような説明内容の工夫が必要ではないか。
(時系列を追った説明、各スポットにおける地域の歴史全体での位置づけを明確にする説明、魅力的な人物にフォーカスした説明など)
- ・既に活動しているガイド等が行う説明やそのフィードバックを活用することも考えられる。

論点2: 将来的に明日香村で暮らしていきたい・活動していきたいと思われるためには何をすべきか？

- ・担い手として二拠点居住や新規移住者も活動に参加しやすい環境づくりに取り組む必要があるのではないか。
- ・明日香村の地で新規の取組など、何かチャレンジをするというのも、新たなつながりを作る上で大事ではないか。

論点3: 村内の今後の農業のあり方はどのように検討すべきか

- ・先端的な技術の使用や一元化により効率化を目指すべき／・伝統的な手法を守るべき

⇒二律背反ではなく、エリアに応じて業としての収益を重視するところと農の営みの楽しさを重視するところ、景観の維持を重視するところなどがあり、それぞれで最適な運営管理の手法を考えるべきでは。

論点4: 農地や樹林地の買入れ地の管理手法はどのように検討すべきか

- ・担い手の確保に取り組みつつ、より柔軟な活用ができるよう、国が必要な助言を行いつつ、県と村が運用について主体的に検討すべき。

論点5: 交通のあり方はどのように考えるべきか

- ・地域全体を博物館のように捉え、施設利用料と公共交通料金を一元的に徴収すること等も考えられる。
- ・観光来訪客と地域住民の使う公共交通は一体で考え、うまく組み合わせていくべき。
- ・今後、オーバーツーリズムが発生しないような観光施策、環境整備に留意していくべき。